【組織活動部門】
岐阜県高山市高根町
農事組合法人　タカネカウマンション

夏山冬里方式は私達の生活のリズムです
―飛騨牛の里をめざす地域活動―

（社）全国肉用牛協会主催
平成 10 年度肉用牛経営発表会参加

上記の所在地は平成 17 年の市町村合併によるもので、それ以前は大野郡高根村といった。高根村は岐阜県の最東端にあって、乗鞍岳、野麦峠、御嶽山などを介して長野県と接する景勝の地である。また、今では日本有数のブランド牛である飛騨牛の産地の一角を占めている。近年、全国的に和牛の頭数が減りつつあるなかで、飛騨牛はそのブランド力で漸増傾向にあるが、山間部の高根村は過疎化と老齢化による減頭が著しかった。それに歯止めをかけるため、村と地域の全面的な支援のもとに、組合員 26 名により平成 5 年に設立されたのがタカネカウマンションである。

常時従事者は代表理事の下田初秋氏だけであり、労力的制約から規模拡大にはいたっていないが、周囲が相変わらず頭数を減らす中、繁殖牛 50 頭、肥育牛 80 頭程度による一貫生産を維持している。その経営の特徴は御岳山の裾野に広がる標高 1,600m、面積 240ha の公共牧場、千町牧場の利用による繁殖牛の夏期放牧である。放牧は妊娠牛に限らず、県から借り受けてタカネカウマンションに繋養している種雄牛とともに未受胎牛も放ち、自然交配も行っている。

この放牧場の管理者は飛騨農業協同組合であるが、牧柵修理、肥料撒布などは利用者が行うことになっており、それらの作業に、タカネカウマンションは中心的な役割を果たしている。毎年 5 月に体験学習の一つとして地元中学生による肥料撒布があり、終了後はタカネカウマンションに誘い「牛恩報謝碑」の前で慰霊祭を行っている。子供達に放牧の素晴らしさを伝え、動物に対する感謝の気持ちを植え付ける活動として評価されている。碑は和牛改良組合が 64 名から 143 万円の寄付を募り、建設したものである。

地域の活性化なくして畜産の振興はあり得ず、代表理事の下田さんは、タカネカウマンションの唯一の常時従事者として多忙であるにもかかわらず、民生委員や農業委員をつとめるほか、多くの地域活動に参加している。

高根村は高冷地ゆえ甘味に富んだトウモロコシができる。その利点を生かして 8 年前からタカネコーン生産組合が組織され、オーナーを募り、オーナーには原則として年 2 回の来村を求めているが、希望者は多く満員の盛況である。下田氏はその組合長である。

過去の野焼きの延長線上の行事として高根村の草原で「日本一かがり火まつり」を開催しているが、有名歌手を招くこともあって毎年 30,000 人が集う大行事となり、平成 17 年は知事も参加した。

⇧御嶽山を背景に広がる 240ha の千町牧場の雄大な風景。牛は満足げに寝そべっている。

⇧毎年 5 月に行われる中学生による肥料撒き。説明を聞いているところ。

⇧タカネコーンの収穫祭。左がカウマンションの下田さん。右は役場の伏見産業振興課長。

⇧野焼きの延長線上の行事「日本一かがり火祭り」。8 月最初の土曜に開催され、毎年 30,000 人が集う。

⇧冬は繁殖牛も畜舎で過ごす。左が繁殖牛舎横景。右は肥育牛舎の正面。いずれも内部は通路をはさみ４頭収容の牛房が向き合って並んでいる。